



神奈川県

令和8年11月4日(水)
令和8年度神奈川県環境科学センター業績発表会

「県民参加調査による 熱中症リスクの把握と意識変容の促進」

神奈川県環境科学センター環境情報部
○大島瑠星、米山翔太、戸嶋健一



神奈川県気候変動適応センター
Local Climate Change Adaptation Center in Kanagawa

目次

1 神奈川県における熱中症の状況

2 県民参加調査「かながわ暑さ調べ」の概要

3 主な調査結果

4 まとめ・今後の課題



2つの気候変動対策

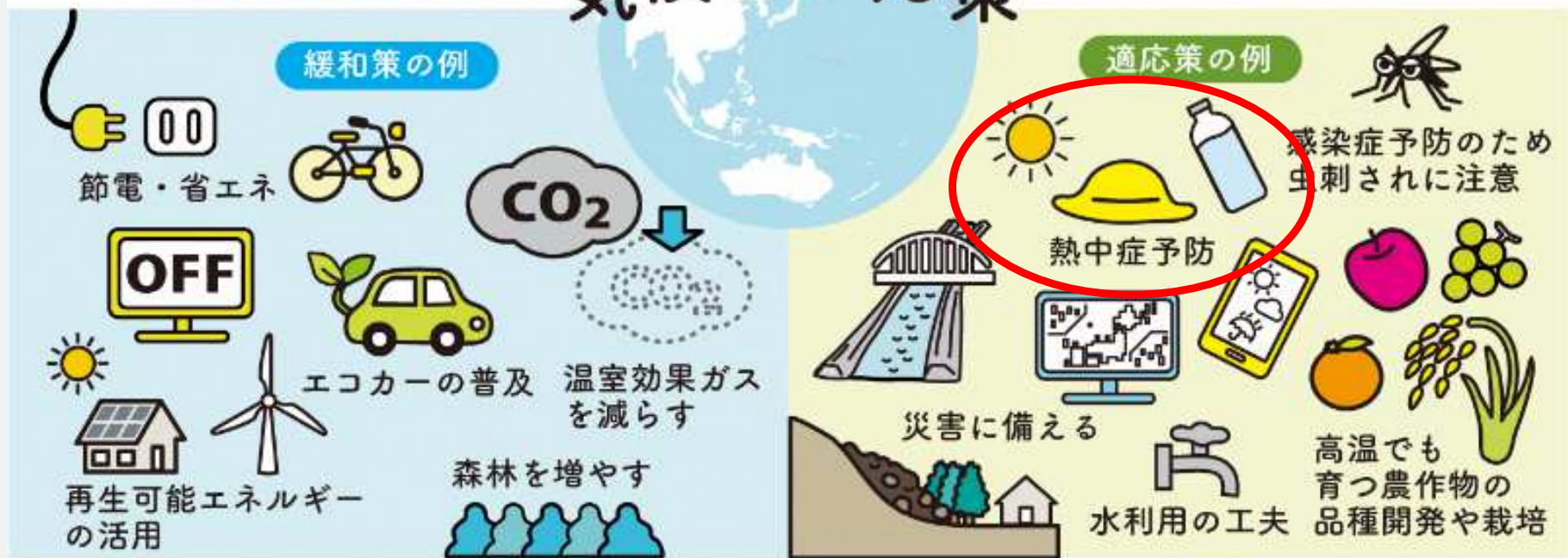
緩和とは？

原因を少なく

2つの 気候変動対策

適応とは？

影響に備える



気候変動による人間社会や自然への影響を回避するためには、温室効果ガスの排出を削減し、気候変動を極力抑制すること（緩和）が重要です。

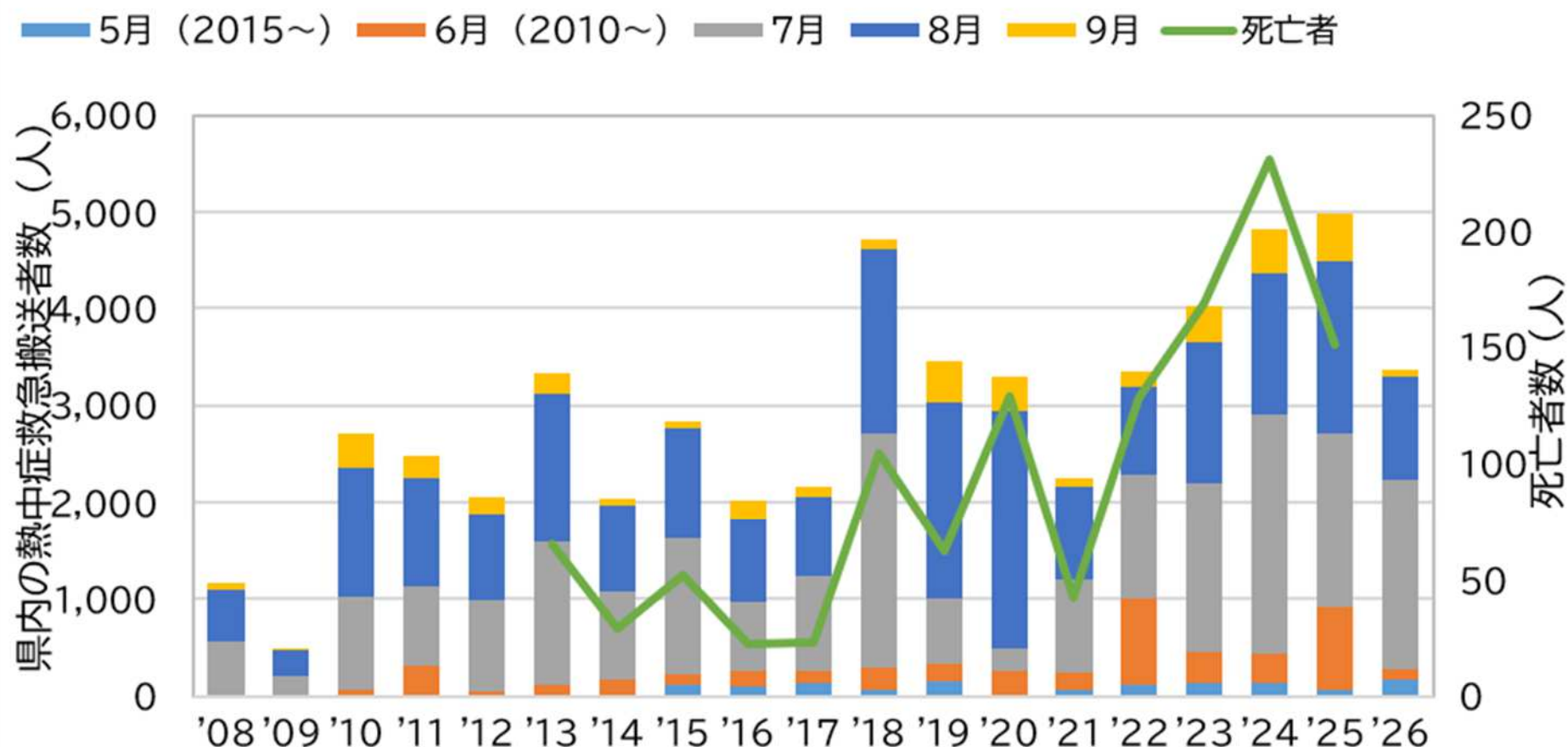
緩和を最大限実施しても避けられない気候変動の影響に対しては、その被害を軽減し、よりよい生活ができるようにしていくこと（適応）が重要です。

(出典:気候変動適応情報プラットフォーム)



神奈川県内の熱中症搬送者数の推移

神奈川県内の熱中症搬送者数は、2025年度に、**過去最高の4,972人**を記録し、直近5年間で3,000人以上/年を継続している。

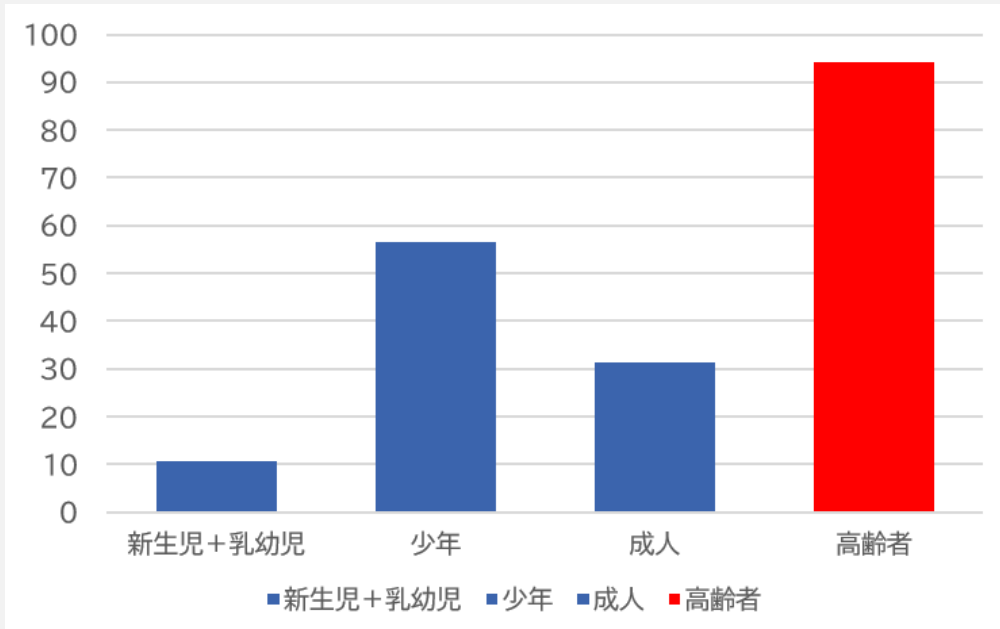


(出典:神奈川県気候変動適応C作成(消防庁HP、厚生労働省HPから))

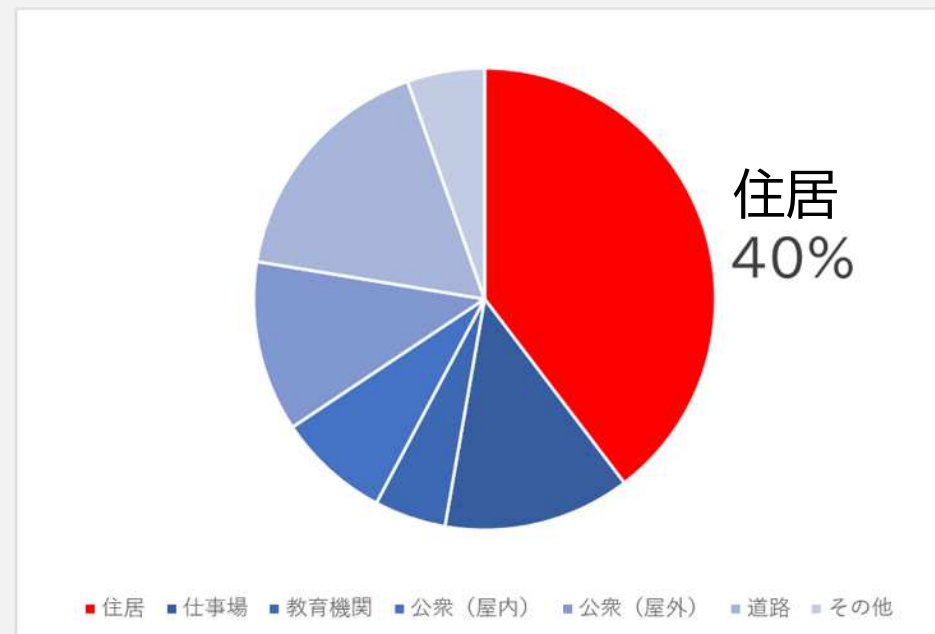
都市化が進み、多くの人口を抱える神奈川県では、**熱中症は緊急性のある重大な課題**

県内の熱中症の発生状況

年齢区分ごとの10万人当たりの平均熱中症搬送者数
(2018～2025年)



熱中症搬送者の発生場所の平均割合
(2018～2025年)



○2018年から2025年までの統計

- ・10万人当たりの熱中症搬送者数は高齢者が最も多い(＝リスクが高い)
(新生児・乳幼児の約9倍、少年の約1.7倍、成人の約3倍)
- ・熱中症搬送者の発生場所は住居が40%で最も高い

暑さは、環境によって大きく異なることから、県民の生活環境
(住居付近)における暑さ指数を把握する必要がある



目次

1 神奈川県における熱中症の状況

2 県民参加調査「かながわ暑さ調べ」の概要

3 主な調査結果

4 まとめ・今後の課題

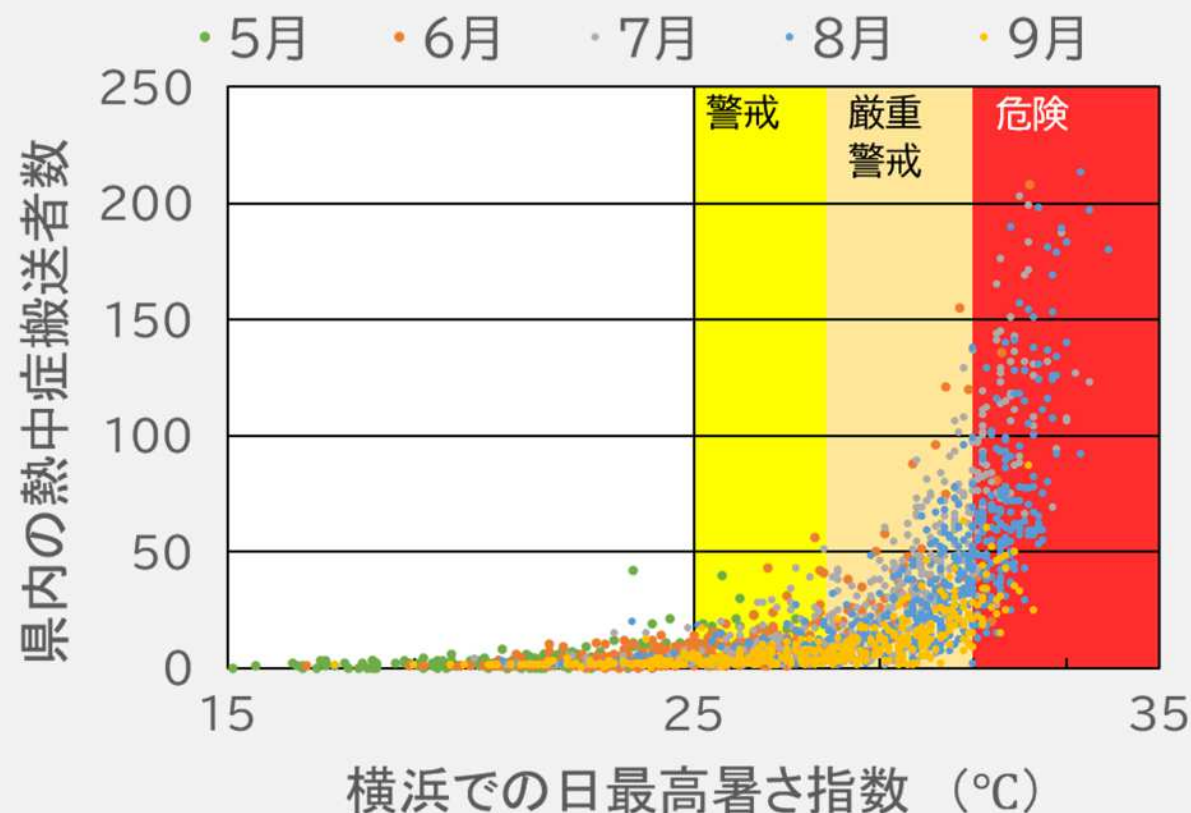
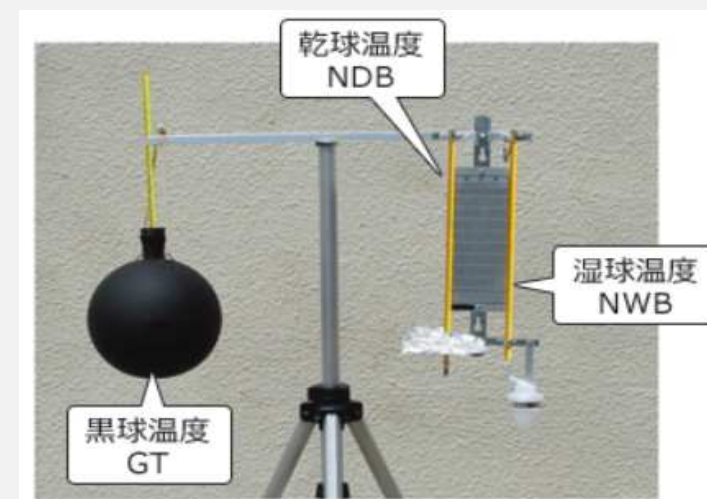


暑さ指数について

暑さ指数 (WBGT: Wet Bulb Globe Temperature)

熱中症を予防することを目的として、人体の熱収支に与える影響の大きい

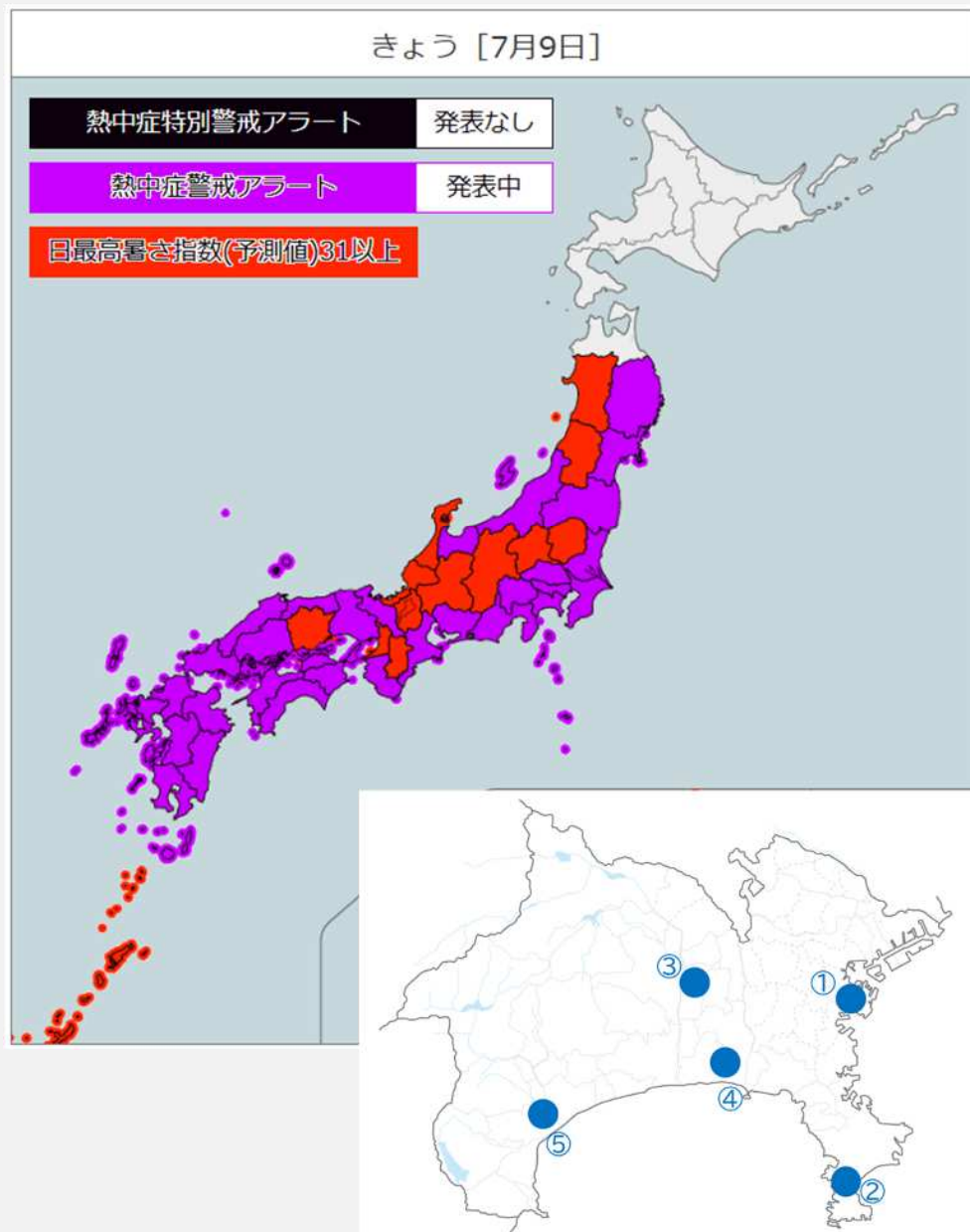
①湿度 ②日射・輻射など周辺の熱環境 ③気温を取り入れた指標



○暑さ指数と熱中症搬送者数

暑さ指数が28を超えると
熱中症搬送者数が急増

暑さ指数の使用例(熱中症警戒アラートの発令基準)



種類	熱中症特別警戒アラート	熱中症警戒アラート
基準	県内 すべての 暑さ指数情報提供地点(※)で翌日の 日最高暑さ指数が35 (予測値)以上	県内いずれかの暑さ指数情報提供地点(※)で翌日・当日の 日最高暑さ指数が33 (予測値)以上
内容	広域的に過去に例のない危険な暑さとなり、人の健康にかかる重大な被害が生じるおそれがある場合に発表	気温が著しく高くなることにより熱中症による人の健康に係る被害が生ずるおそれがある場合に発表

(※) 神奈川県内の暑さ指数情報提供地点(5か所)
①横浜、②三浦、③海老名、④辻堂、⑤小田原

▶ 環境省
熱中症予防情報サイト
<https://www.wbgt.env.go.jp/alert.php>

県民参加調査「かながわ暑さ調べ」概要

○実施目的

暑さ指数を県内各地で一斉に測定し、熱中症のリスクを把握すること

○実施方法

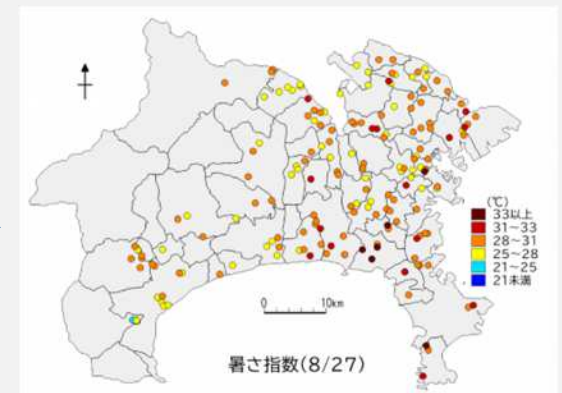
参加者200名へ簡易暑さ指数計を配布し、指定した日に屋外の身の回りの暑さ指数を測定する



簡易暑さ指数計を貸与
事前の説明会を実施



身の回りの暑さを測定



生活の中での“暑さ”を把握
地域による違いを把握

調査参加者の実施内容

1

- ・調査指定日の13時頃、身の回りで暑さ指数を測定
- <(原則)測定条件>
- ・風通しがよく、日当たりの良い場所
 - ・地面からおおよそ1m程度の場所
 - ・地面の状態は指定しない(緑地、コンクリート上など)



2

- ・“暑さ指数”の測定結果を記録用紙へ記入
 - ・(可能な参加者のみ)
- ArcGISマップに即時反映されるウェブフォームへ入力
- ・調査終了後のアンケートへ回答
- <記入内容>
- ・測定日時・暑さ指数
 - ・測定環境(路面状況、場所、日当たり、風通し)

A screenshot of a web form for recording heat index data. The form includes fields for "機器の番号" (Device Number), "測定日時" (Measurement Date and Time), "暑さ指数 (WBGT(℃))" (Heat Index (WBGT(℃))), and "測定地点" (Measurement Location). The "測定地点" field shows a map of a residential area with a blue pin indicating the location. The form is titled "機器の番号*" and "測定日時*" and "暑さ指数 (WBGT(℃))*" and "測定地点*".

目次

1 神奈川県における熱中症の状況

2 県民参加調査「かながわ暑さ調べ」の概要

3 主な調査結果

4 まとめ・今後の課題

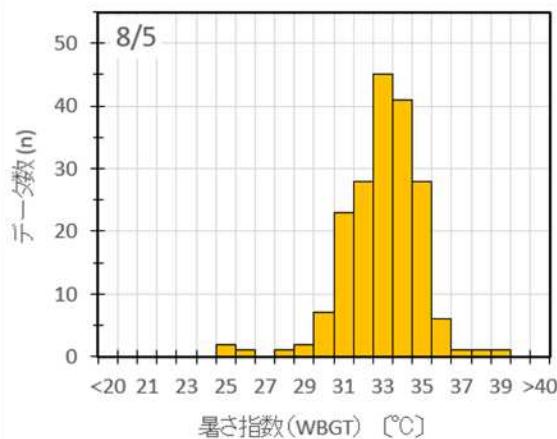
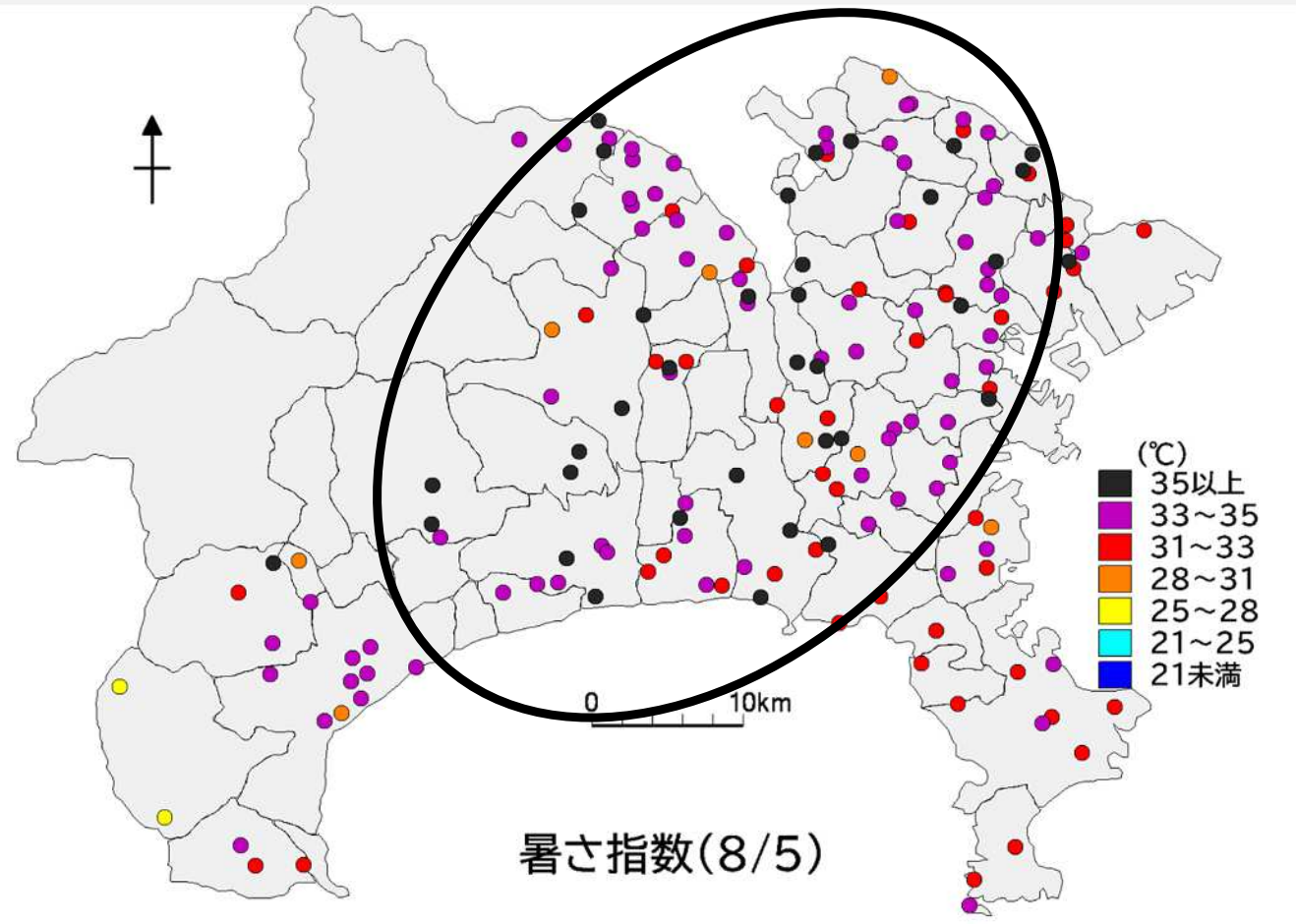


測定結果について(2025年度実施調査)

○非常に暑かった第1日目(2025年8月5日)

10万人当たりの熱中症搬送者数(人)

横浜・川崎地域	1.3
横須賀・三浦地域	2.2
相模原・県央地域	2.8
湘南地域	1.7
県西地域	2.1



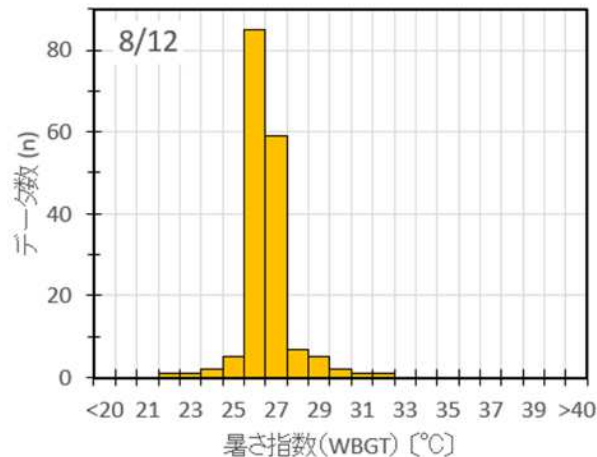
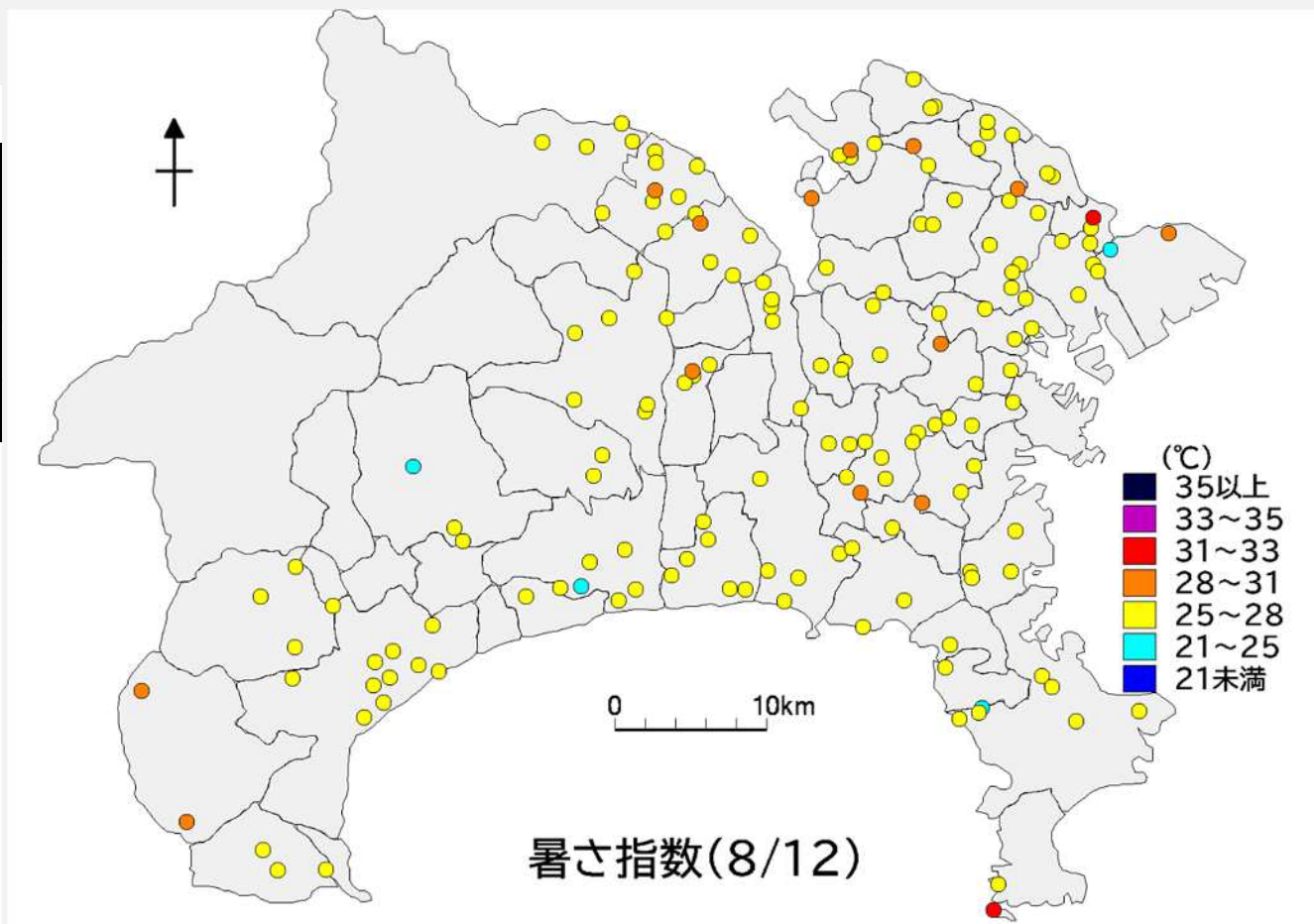
約20%の測定場所で熱中症特別警戒アラートの発令基準を超過する暑さ指数35以上を記録した
沿岸部と比較して内陸部の方が暑さ指数が高い傾向がみられる

測定結果

○日照の少なかった第2日目(2025年8月12日)

10万人当たりの熱中症搬送者数(人)

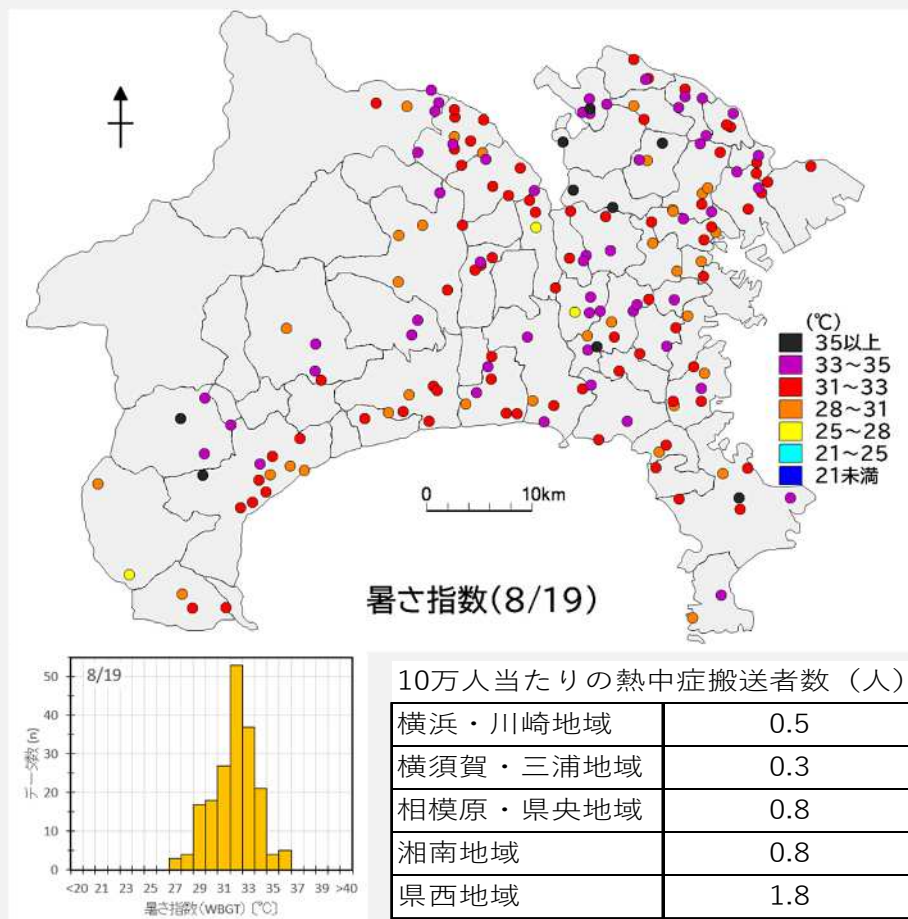
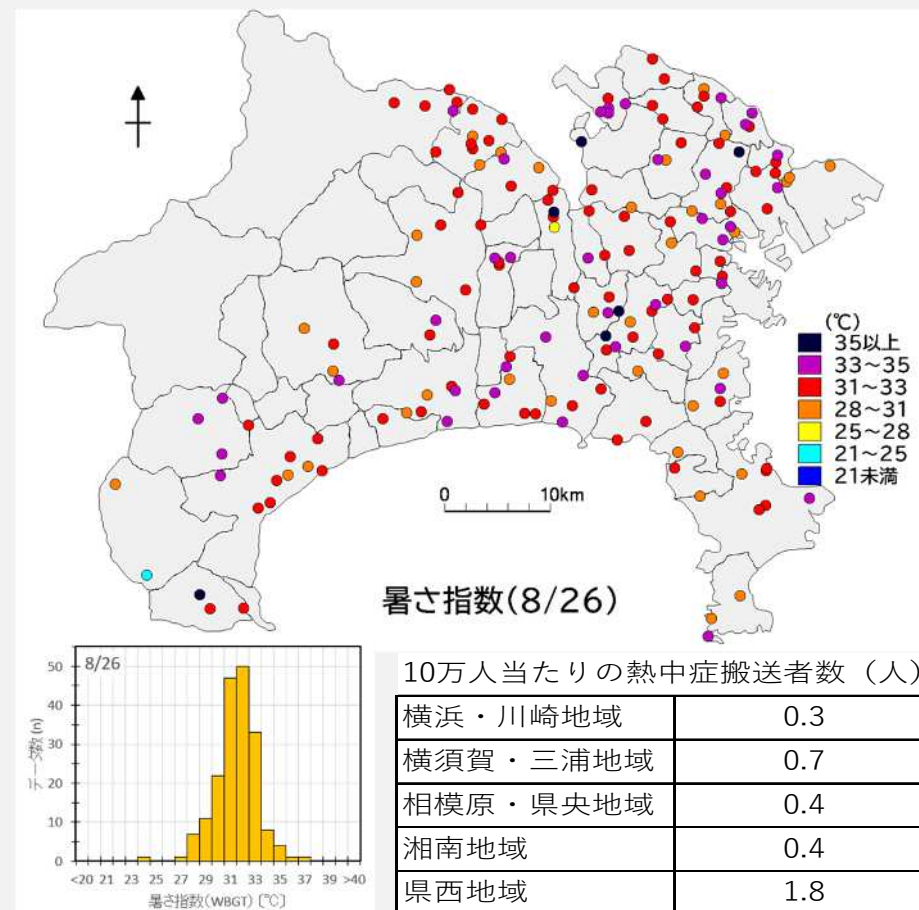
横浜・川崎地域	0.0
横須賀・三浦地域	0.1
相模原・県央地域	0.1
湘南地域	0.2
県西地域	0.3



終日曇りで気温も高くならなかった測定日のため、県全域において暑さ指数25～28の注意レベルとなった。

測定結果

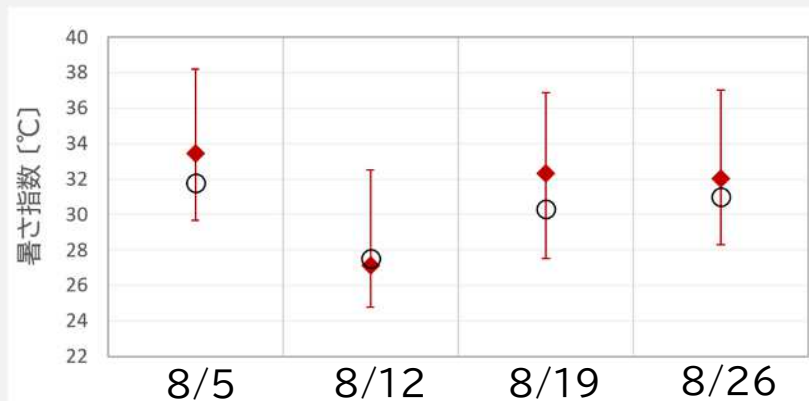
○測定場所によって差が見られた第3日目・4日目(2025年8月19日、26日)



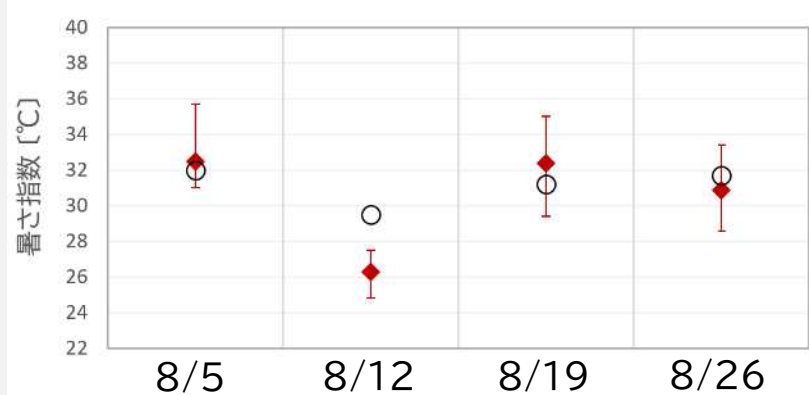
両日約80%の測定場所で暑さ指数31～の危険レベルとなった
また、約5%の測定場所で局所的に暑さ指数35～を記録した
沿岸部と比較して内陸部の方が暑さ指数が高い傾向がみられる

地域別測定結果

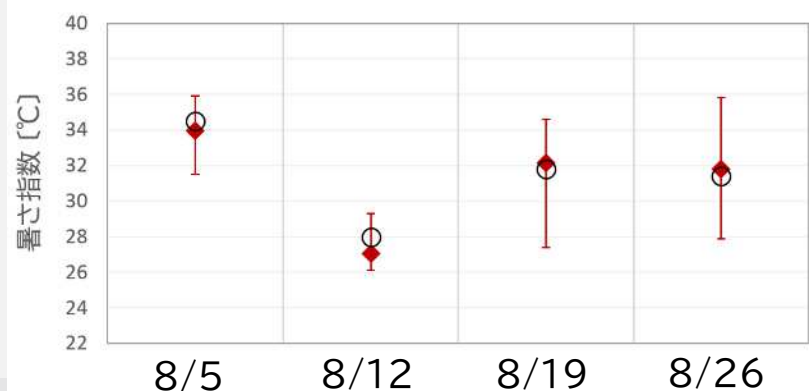
【横浜・川崎地域】



【横須賀・三浦地域】

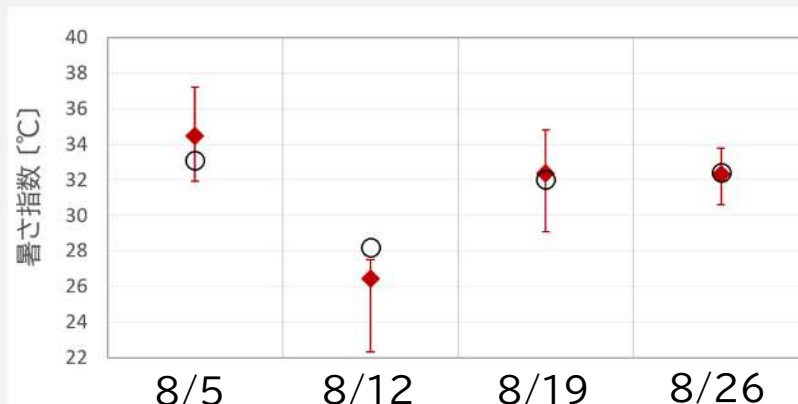


【相模原・県央地域】

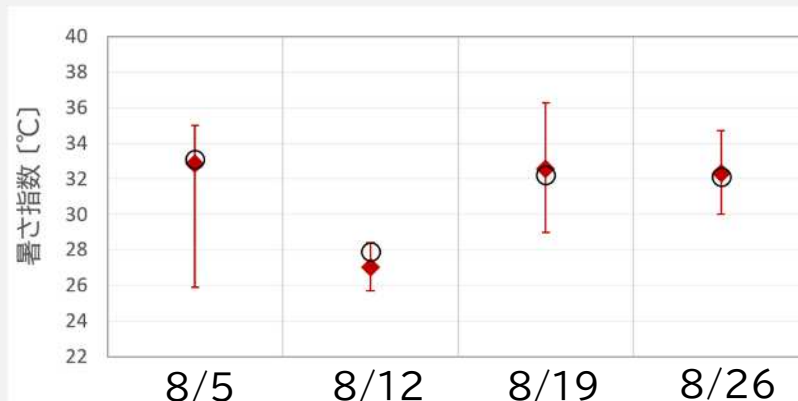


◆ かながわ暑さ調べ地域平均 ○ 地域内の環境省データ(参考)

【湘南地域】



【県西地域】

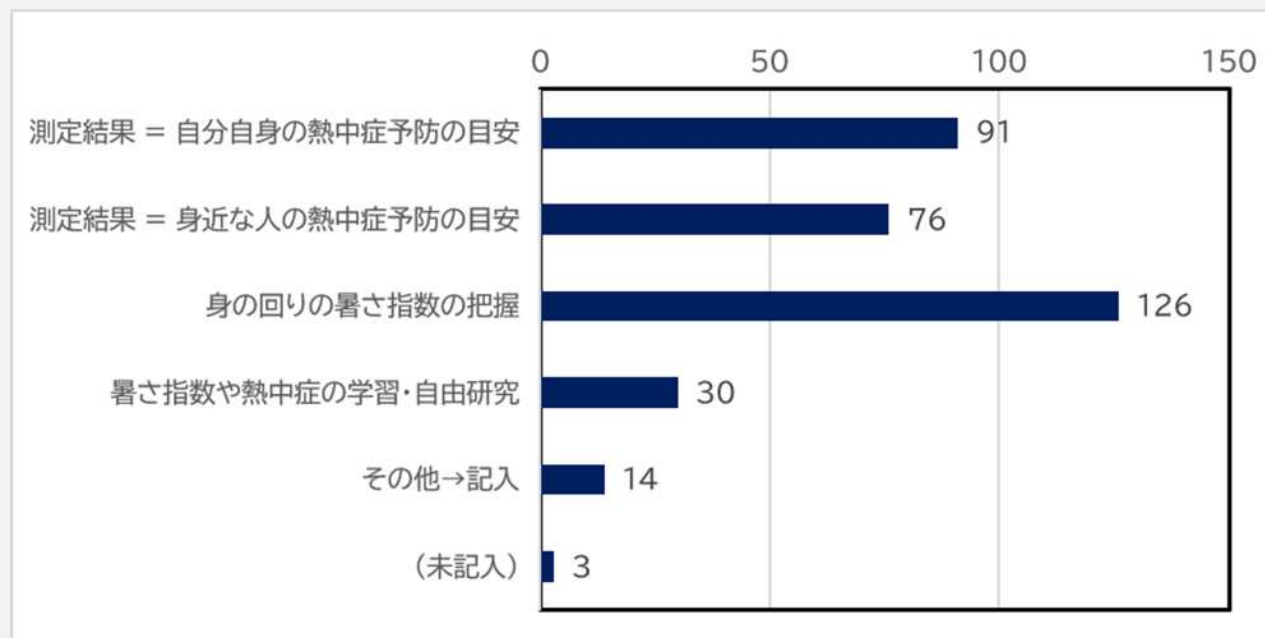


・8/12の横須賀三浦/湘南地域を除いて、環境省提供値(横浜地方気象台及びアメダス地点)と暑さ調べ地域平均暑さ指数は機器の測定誤差範囲内となった。

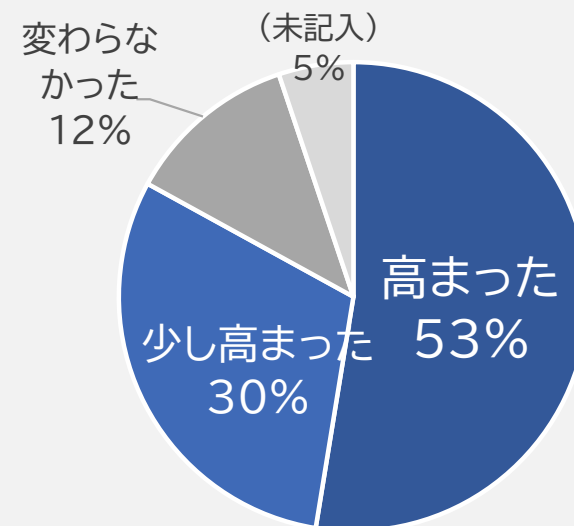
・晴天で日射が強い日は、暑さ指数の最大-最小範囲が大きく、周辺的环境によって“暑さ”が異なることが分かる
(2026年度調査速報でも同様の傾向がみられる)

参加者のアンケート結果について

Q.一斉測定日以外に
暑さ指数計をどのような用途で使したか



Q.例年と比較して、
熱中症予防の意識はどう変化したか



○「測定結果を身近な人の熱中症予防の目安として活用」を選択した人の延べ内訳
家族や知人などに知らせた(対象):319人、団体の構成員や社員等(対象):1,246人

⇒調査200人に対して、参加者が主体的に約8倍の人へ啓発を進めた。(=自分事化)

(その他)

児童クラブの外遊び基準や高齢者の地域活動の際の実施可否判断、小学生の自由研究など



調査参加者を対象としたワークショップの開催

調査参加者を対象としたワークショップを実施

※共同研究先の早稲田大学馬場研究室及び東京都市大学小澤研究室と共同実施

<主な内容>

- ・県民参加調査結果の概説
- ・市民科学によるデータの重要性や熱中症警戒アラート導入前後の意識調査結果等の共有
- ・調査への参加を通じた、暑さ対策への意見交換

[illegible]

参加者からの意見等

- ・働いている保育園では、熱中症警戒アラートが発令された日は問答無用で子供たちの外遊びを禁止していたが、今回初めて暑さ指数計で実測した結果、日陰は想像以上に数値が低いことが分かった。
- ・自治会内の公園におけるの子供たちの水遊び活動を熱中症警戒アラートの発令有無と暑さ指数の実測値で判断するようにルールを作った。
- ・実測値と天気予報を比較して、今日は暑いとSNSに投稿した。
- ・近所の一人暮らしの高齢者へ声かけをするときに、一緒に数値を見ながら熱中症に気を付けるよう呼びかけ、説明の助けになった。

県民参加調査で暑さ指数計に触れたことで、身近な環境の“暑さ”を視覚的に理解し、地域や職場等でルールを作ったり、身の回りの健康管理を行うきっかけづくりとして有用



目次

1 神奈川県における熱中症の状況

2 県民参加調査「かながわ暑さ調べ」の概要

3 主な調査結果

4 まとめ・今後の課題



まとめ・今後の課題

○参加者が自身が身の回りの“暑さ指数”を測り、暑さを可視化することで熱中症リスクを再確認し、自分事化することにつながった

○また、暑さを数値として可視化することや暑さマップを公開することによって、周囲の人への熱中症対策の呼びかけに活用できる

○熱中症警戒アラートが発令されていない日においても、暑さ指数が33を超過する地域(中には35を超過する地域もある。)があり、特に好天気で日射が強い日に限っては、国提供値と生活環境における暑さ指数に違いが見られた。

<今後の課題>

○調査参加者のハードルを下げるために、
測定条件指定を少なくしていることで、空間的・時間的なサンプルが足りていない。
⇒測定データを活用しやすいような調査手法への変更を検討する必要がある。

○リアルタイムな暑さマップとしての需要を高め、調査参加者以外の暑さ指数計所持者(個人・団体等)からの暑さ指数報告数を増やす取り組みを進める



ご清聴ありがとうございました

本取組は、国立環境研究所との共同研究(適応型)「気候変動による暑熱・健康等への影響に関する研究」の中で実施しました。

<https://adaptation-platform.nies.go.jp/ccca/research/heat-adapted/>

神奈川県気候変動適応センターは、気候変動の影響から県民のいのちや財産を守る地域の情報拠点として、一層活動の充実を図ってまいります。

皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

参考となるサイト

○神奈川県気候変動適応センター

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/tekiou/top.html>

○かながわ気候変動WEB

https://www.pref.kanagawa.jp/osirase/0323/climate_change/index.html

○かながわ気候変動WEB KIDS

https://www.pref.kanagawa.jp/osirase/0323/climate_change/kids/index.html

○A-PLAT(気候変動適応情報プラットフォーム)

※国立研究開発法人 国立環境研究所内サイト

<https://adaptation-platform.nies.go.jp/>



▲県ホームページ

